

## 秋田県校友会第37回同窓生の集い

平成25年7月27日（土）秋田市中通の秋田ビューホテルにおいて、「第37回同窓生の集い」が大学本部から塚本篤士先生、また岩手県から田口庸蔵支部長、細川隆副支部長はじめ5名の会員に出席いただき、県内同窓生を合わせ計24名が参加して開催されました。今年度は、岩手県支部から「合同で同窓会開催」の提案があり、秋田県支部との合同開催が実現したものです。

総会は、この1年間の物故者に対する黙祷の後、菅原芳孝会長（昭和48年卒）のあいさつに始まり、岩手県支部田口支部長（昭和47年卒）のあいさつでは、岩手県支部の現状、震災後の様子等お話いただいた。議事は平成24年度会務報告及び決算報告、平成25年度事業計画及び収支予算案について審議され、満場一致で原案どおり承認された。

研修会では2題の発表があり、北部家畜保健衛生所の野村真実会員（平成18年卒）から「牛尿路コリネバクテリア感染症の発生と遺伝子検査手法の検討」、秋田県総合保健事業団の本宮薫会員（昭和62年卒）から「温泉分析の現状と課題」と題して畜産・環境のそれぞれの分野から発表が行われ、活発な意見交換が行われた。

講話では、塚本先生から大学の近況や同窓会の現況について、施設・設備の充実ぶり、最近の学生たちの気質等詳細なお話をいただいた。参加者からは、秋田・岩手両県の同窓生の減少、学生と同窓会との結びつき、支部同窓会への参加率向上の方策等の意見・要望が出され、塚本先生には学生に対する秋田・岩手両県のPRをお願いしました。

懇親会では、佐藤林治相談役（昭和41年卒）の乾杯で始まり、和やかな雰囲気の中で学生時代の昔話に花を咲かせ、同窓会の活性化や将来展望について、日頃の仕事の情報交換等で話が弾んだ。中締めを鈴木敏規副会長（昭和46年卒）にお願いし、会場を変えての二次会にも多くの参加者が出席。にぎやかな時間を過ごし、来年度の再会を期し懇親会を終了した。

最後に、大変お忙しい中ご出席いただいた塚本先生、岩手県支部の皆様にご挨拶申し上げますとともに、同窓会の益々の発展を祈念し報告といたします。

（事務局 蒔苗 修 昭和54年卒）

